

<第2議案>

2020年度収支決算(案)

8～9ページの2020年度損益計算書(自2020年1月1日至2020年12月31日)と貸借対照表(2020年12月31日現在)をもって、2020年度収支決算とする。損益計算書は、「一般会計」と2018年に設立した「次世代基金」に区分して示してある。

I 損益計算書

2020年度決算のポイントは以下の通りである。

1. 全体として

2020年度の単年度収支は約40万円の黒字となり、通常会計の次期繰り越し金は約359万円となる。

2018年に創設した次世代基金は、19年の700万円を入れると1500万円の基金となり、2020年は、情報管理の臨時雇用、及びスタッフ1名の2か月分の給与として計103万円を支出した。その結果、約1,171万円が次期繰り越し金となる。

2. 会費収入について

会費収入は対予算比約48万円の減収であり、予算執行率は90%である。

3. 事業収入・支出について

『ピース・アルマナック2020』、『核軍縮・平和2019』の発行の結果、書籍販売収入は約199万円である。

コロナ禍の影響もあり、「講演・執筆」は予算比19万円減で、「情報サービス・調査受託」は予算比16万円減である。

4. 寄付金収入、助成金収入について

寄付金収入は、予算比で29万円減となった。ただし、コロナ禍に伴うNPT再検討会議の延期により海外派遣が不可能となった結果、海外派遣カンパをしなかったことが大きな要因である。

助成金では、アユス仏教国際協力ネットワークの「NGO組織強化支援事業」として1月から12月までで158万円の支援金を受けることができた。「よこはま夢ファンド」は、2019年分として188万円、及び2020年分として2,586,000円の寄付を受けた。これらにより、スタッフ雇用2人分の給与を一般会計で賄うことができた。

5. 費用の部

1. 事業費の支出全体としては予算比232万円増となった。これは、スタッフ給与を2名分、すべて一般会計から支出することに切り替えたことによる。

2. 管理費支出全体としては予算執行率108%である。

II 貸借対照表

以上の損益計算書を反映させた結果、2020年12月31日現在の正味財産は、通常会計で359万円、次世代基金が1,171万円、合計約1,530万円となる。